

坊ちゃん名探偵

我が家で泥棒の被害に遭ったのは三回ほどある。殆ど損害が無かったが、どれもこれも、それなりにエピソードがある。

家電商品の店のほか、間口一間奥行き三間ばかりのアチュアが喜びそうな、電気関係、無線関係の解体部品などガラクタ物を売っていた。NHK払い下げのレコード等も置いていた。

レコードは一枚十円で仕入れ百円で売った。LP盤一枚が新品だと千円以上二千円位する。NHKで大切に取扱っていたのだろう、新品と同じようだった。半分以上すぐ売れた。元出を残しあとは洋一の自動車運転免許の学資にした。五万円位だった。

その店に私達の愛用のアマチュア無線トランシーバーをうつかり掛けて置いた。ワットの携帯用が何時の間にか盗まれてしまった。

肩に掛け持ち歩き、何時でも連絡できる。勿論アマチュア無線技士の資格が無ければ操作は許されない。我が家は全員持っている。私は第一級、二郎は電話級、電信級。妻と洋一は電話級である。

電波の日にNHKテレビ放送で我が家を紹介されたこともある。「JA7JYBこちらはJA7JTZ感度いかがですかどう

ぞ」そんな感じの交信が大空に電波になつてながれ多くの人々の耳に入つた事だろう。

家には固定局用無線機十ワット、車には移動局十ワット、それに携帯用一ワット、家族全員で楽しんでいた。

その携帯用が盗まれてしまった。なかば諦めていたが、二郎が苦心の上、約十日後に犯人を捜しあててくれた。

その無線機には我が家の固定局を呼び出す為、特別な周波数の水晶片が入っている。144・92メガヘルツ、ほんの仲のいい友達だけが装置してある。「92クラブ」と名前を付けてあつた。

この周波数帯「144〜146メガヘルツ」は「イッチヨンチヨン」の愛称がある。

盗まれて幾日かたつたある日、二郎が固定局のスイッチを入れクラブ用の周波数に切り替えて置いたら、その周波数で電波をだす中学生くらいの子の声が受信できた。二郎はすぐ応答「コールサインは何と言いますか」と聞いたら、「申請中でまだ来ません」と言う。

二郎は、ピンときた「免許が届くまで電波を出してはいけません」とは言わず話し相手になり、三、四日よもやま話をして仲よくなり、学校と名前を聞き出した。免許とコールサインがなければ

ば無線局の運用は違反だ。

二郎は学校に行き訳を話し、その生徒の住所を聞き出した。二郎はその家の近くで話を聞き、その生徒がトランシーバーを持ち歩いている事が確実に成り、私に電話をよこした。

その家は大きくて、数多い店を貸しているそうだ。私は「乗りこんではいけません、すぐ帰って来なさい」と話した。

私はアマチュア仲間で、お巡りさん（小松さん）に相談した。摘発するのではなく、穏やかに話してトランシーバーを返して貰おうと、小松さんと二人でその家に行った。

その親達は「家の子供に限って盗みなんかしない」と言っていて、話しにならない。そんな話をしているうち少年がトランシーバーを肩に掛けて帰ってきた。間違いなく私のトランシーバーだ。

「このトランシーバーは私の物ですが、どうしたのですか」と聞いたなら「友達から借りた」東口近くの誰それさんからだという。一応トランシーバーを取り上げ、家に帰った。

次の日小松さんにその家に行ってもらい話を聞いたら、その友達は「二、三年会ったこともありません、トランシーバーの事も知りません」と言う。こうなったら事件だ、その家の子供は警察に親と一緒に呼び出され、婦人警官の取り調べを受け、何もかも

白状した。

小松さんと、その家に話しを付けに行つた時、素直に謝れば穩便に済んだのと思つた。その上電波法違反だ。親は警察から絞られたのだろう。

その件はどう決着付いたのか聞かなかつた。

二、三日経つた夜少年を連れて両親が手土産を持って謝りに来た。

私の家より裕福な家庭に育つて、どうして盗みなんかするのだろう。親の躰が、間違つていたのだろうか、何がどうなつてゐるか分らない。両親揃つて頭を下げに来る、本当に恥ずかしくて苦痛だつたらう。

警察で私に三人で謝りに行くことを条件に許されたのだろうか。それとも、自発的に子供の戒めの為、恥を忍んで来たのだろうか。子供がそのことを思い出し、親の心情を察し、二度と過ちを侵さないと、心に誓つ事ができたらうか。

二郎が中学生の頃の出来事である。あの子は立派に家庭を築いて居るだらうか。